

令和5・6年度 さいたま市教育委員会 委嘱  
さいたま市学校保健会 委嘱  
さいたま市立川通中学校 「学校安全」研究発表会

# 生徒の「エージェンシー」を育む教育の研究

～主体的に「自助」「共助」でき、  
地域の中心となって活躍できる生徒の育成～

令和6年11月19日（火）

これより本校の研究概要 発表をはじめます。よろしくお願いいたします。

## 本校について

- ▶ 各学年2クラス 全校生徒約180人の小規模校であること
- ▶ 学区が広く、ほぼ全員が自転車通学をしていること
- ▶ 周りに田畑が多く、元荒川も近いこと
- ▶ 地域の行事がさかん...祭り・地区運動会など
- ▶ 二代・三代で川通中学校出身なご家庭も多い



**地域愛着が高いことが特徴**

まず、本校についてです。

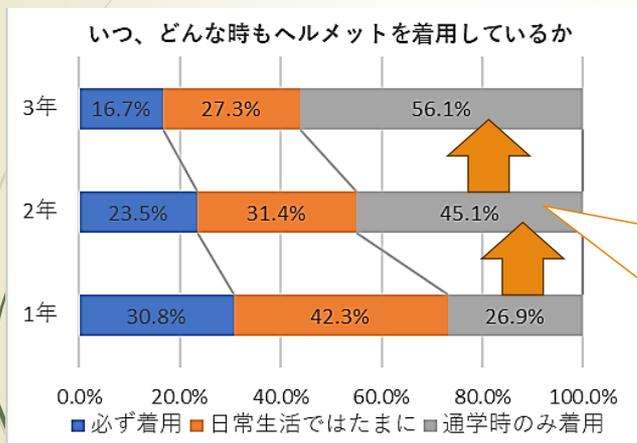
本校は、各学年2クラス平行、全校生徒およそ180人と小規模校に位置します。学区が縦に広く、ほぼ全員が自転車通学をしているのが特徴です。周りは田畑が多く、近くには元荒川も流れており、川沿いに住んでいる家庭も少なくありません。

また、地域の特徴として、祭り・地区運動会などの行事が盛んで、生徒たちも多く参加しています。

本校に通う生徒の家庭には、二代・三代で川通中出身なご家庭も多く、「地域愛着が高いこと」が特徴として挙げられます。

## 令和6年度6月実施「学校安全に関するアンケート」結果より 生徒の実態・・・（研究紀要 2にも掲載）

### 【交通安全への意識について】



**学年が上がるにつれて  
通学時以外でも着用して  
いる生徒が減少している。**

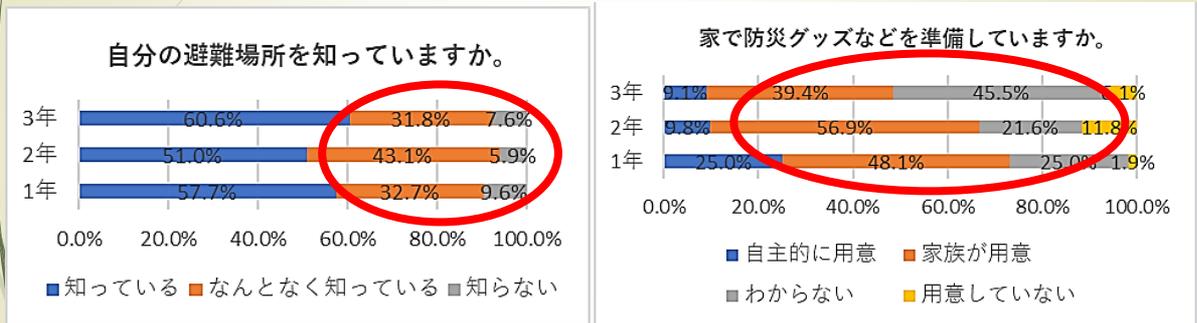
次に、川通中の生徒の実態についてです。  
今年度6月に、全学年に実施した「学校安全」に関するアンケートの結果より  
分析を行いました。  
研究紀要のパンフレット2番にも記載がありますのでご覧ください。

まず、「交通安全への意識について」です。本校は自転車通学であるため。  
ほぼ全員が自分のヘルメットを持っています。

【いつ、どんな時もヘルメットを着用しているか】の問いについては、この  
ような結果となりました。  
日常生活でも必ず着用している生徒は青・日常生活ではたまに着用する生徒  
はオレンジ・通学時のみの着用の場合はグレーで表示されています。  
この図を見ると、通学時のみ着用している生徒が、1年生26.9%、2年生45.1%、  
3年生56.1%となっており、学年が上がるにつれて通学時以外でも着用する生  
徒は減少する傾向にあると分かります。

## 令和6年度6月実施「学校安全に関するアンケート」結果より 生徒の実態・・・（研究紀要 2にも掲載）

### 【災害安全への意識について】



**「なんとなく...」や「わからない」が多く、  
自分自身の課題として主体的に捉える意識が低い。**

つづいて、「災害安全」への意識についてです。

①自分の避難場所を知っていますか ②家で防災グッズなどを準備していますか という2つの問いに着目しました。

どちらもこのような結果になっています。

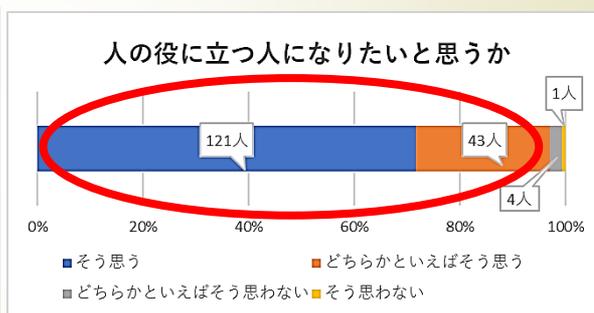
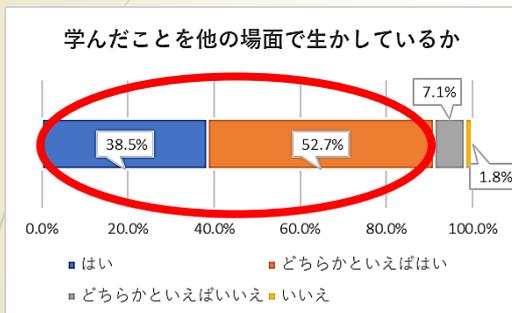
①自分の避難場所を知っていますか については、オレンジで示される「なんとなく知っている」・グレーで示される「知らない」と回答する生徒がどの学年も40%以上いることが分かります。

②家で防災グッズなどを準備していますか については、オレンジで示される「家族が用意している」やグレーで示される「わからない」と回答した生徒が、70~80%を占めていました。

このことから、「災害安全」や「防災」を自分自身の課題として主体的にとらえる意識が低いことが伺えます。

## 令和6年度6月実施「学校安全に関するアンケート」結果より 生徒の実態・・・（研究紀要 2にも掲載）

【「エージェンシー」に係る内容について】



**90%を超える生徒が肯定的な評価を示している**

続いて、「エージェンシー」にかかわる内容についてです。

①学んだことを他の場面で生かしているか

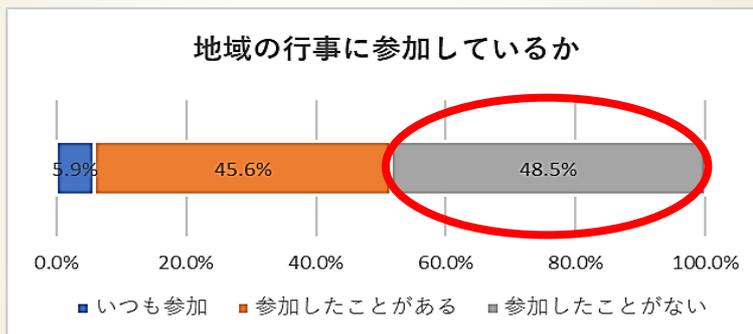
②人の役に立つ人になりたいと思うか

の2つの問いに着目しました。

どちらにおいても、青で示される「はい・そう思う」とオレンジで示される「どちらかといえばはい・そう思う」の項目が90%を超えていることが分かります。

令和6年度6月実施「学校安全に関するアンケート」結果より  
生徒の実態・・・（研究紀要 2にも掲載）

【「エージェンシー」に係る内容について】



**半数近くの生徒が参加したことがないと回答**

続いて、「エージェンシー」にかかわる内容・かつ地域に係る内容についてです。

今回「地域の行事さんかしているか」という問いを立てました。

すると青で示される「いつも参加している」と答えた生徒は全校の5.9%、オレンジで示される「参加したことがある」と回答した生徒は45.6%でした。

しかし、グレーの「参加したことがない」と回答した生徒は48.5%となっており、半数近くの生徒が参加したことがないとわかりました。

## 令和6年度6月実施「学校安全に関するアンケート」結果より 生徒の実態・・・（研究紀要 2にも掲載）

### 見えてきた課題・・・

- ▶ 交通安全・災害安全ともに意識を高めていく必要があること
- ▶ 「安全」について、他人事ではなく自分事として捉え、主体的に行動できるようにすること
- ▶ 「学んだことを他の場面で生かす」「人の役に立ちたい」といった資質能力を、「学んだことを地域社会で生かす」「生活や世の中を少しでも変えようと考え行動する」といった『エージェンシー』として育むこと。
- ▶ 「地域とのつながり」を深め、地域の中心となって主体的に行動できるようにすること

以上のことから

今回の研究を通して、

- 交通安全・災害安全ともに意識を高めていく必要があること
  - 「安全」について、他人事ではなく自分事として捉え、主体的に行動できるようにすること
  - 「学んだことを他の場面で生かす」「人の役に立ちたい」といった資質能力を、「学んだことを地域社会で生かす」「生活や世の中を少しでも変えようと考え行動する」といった『エージェンシー』として育むこと。
  - 「地域とのつながり」を深め、地域の中心となって主体的に行動できるようにすることが必要である
- といった課題が見えてきました。



研究主題

## 生徒の「エージェンシー」を 育む教育の研究

～主体的に「自助」「共助」でき、  
地域の中心となって活躍できる生徒の育成～

このような経緯を持ち、今回の研究の主題を  
生徒の「エージェンシー」を育む教育の研究  
～主体的に「自助」「共助」でき、地域の中心となって活躍できる生徒  
の育成～  
とすることにしました。

## エージェンシーとは

- 令和6年度 さいたま市教育行政方針（さいたま市教育委員会より）  
「ウェルビーイング（幸せ）を保障する教育」の実現を目指して

～予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーを育むために～

エージェンシー：「自分の幸せな人生と豊かな社会を創造するために、学校で学んだことを地域社会で生かし、多くの他者と協働して、自分の考えや行動で、自身の生活や世の中を少しでも変えようと行動する力」と定義。

- 2019年5月「The OECD Learning Compass2030」より  
エージェンシー：「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義。

## 学校教育目標「向学 自立 協働」とも近い意味

さて、ここまで何度も登場していた「エージェンシー」ですが、この言葉に聞きなじみがない方も多いと思います。

エージェンシーとは、令和6年度 さいたま市教育委員会より出された、さいたま市教育行政方針においては

「ウェルビーイング（幸せ）を保障する教育」の実現を目指して～予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーを育むために～ と示されています。

その中でエージェンシーは、「自分の幸せな人生と豊かな社会を創造するために、学校で学んだことを地域社会で生かし、多くの他者と協働して、自分の考えや行動で、自身の生活や世の中を少しでも変えようと行動する力」と定義されているものです。

また、2019年5月にだされた、2030年を生きる子供たちの学習の枠組みとして示されるOECD ラーニングコンパス 2030では、エージェンシーは、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義されています。

このようなことを読み解いていったときに、本校の学校教育目標である「向学 自立 協働」とも近い意味であり、

「エージェンシー」を育むことが学校教育目標の達成にも欠かせないと考え引用しました。

## 主題設定の理由

エージェンシー

×

学校安全  
「自助」  
「共助」

学校安全について学習しながら、  
自分の住む地域について想い、考えること  
を通して、自分や家族を守り(自助)、  
地域を守る(共助) 想いを醸成し、  
「エージェンシー」を育みたい。

自分の幸せな人生  
の創造

豊かな社会  
の創造

学校教育目標 向学・自立・協働

研究主題

生徒の「エージェンシー」を育む教育の研究  
～主体的に「自助」「共助」でき、地域を中心となって活躍できる生徒の育成～

学んだことを  
地域社会で生かす

生活や世の中を  
少しでも変えようと考え、  
行動する

エージェンシー

多くの他者との協働

目標設定・振り返りを通して  
責任ある行動をする

安全への意識を  
高め、主体性を  
育む授業実践

生活安全をもとに  
した専門委員会・  
部活動の取組

地域との  
連携

ここまでのように「エージェンシーの育成」と「自助・共助」といった学校安全」を掛け合わせたのが本研究であり、学校安全について学習しながら自分の住む地域について想い、考えることを通して、自分や家族を守り(自助)、地域を守る(共助) 想いを醸成し、「エージェンシー」を育みたい という思いが、今回の主題には込められています。

## 仮説

- ▶ 「学校安全」に重点を置くことで、生徒の安全意識は高まるだろう。
- ▶ 主体的に「自助」「共助」できる生徒を育む取組を行うことで、自己の安全意識が高まるだけでなく、周囲の人の役に立つ・助けるといった他者への意識も高まるだろう。
- ▶ 多くの人と協働しながら学んでいくことで、学んだことを活かそうとする姿勢や現状をよりよくしようとする意識が増進するだろう。
- ▶ 本研究を通して、地域のことを知り、地域の方々と関わることで愛着が増し、地域への関心や行事への参加率なども向上するだろう。

さて、この研究においては

- ①「学校安全」に重点を置くことで、生徒の安全意識は高まるだろう。
  - ②主体的に「自助」「共助」できる生徒を育む取組を行うことで、自己の安全意識が高まるだけでなく、周囲の人の役に立つ・助けるといった他者への意識も高まるだろう。
  - ③多くの人と協働しながら学んでいくことで、学んだことを活かそうとする姿勢や現状をよりよくしようとする意識が増進するだろう。
  - ④本研究を通して、地域のことを知り、地域の方々と関わることで愛着が増し、地域への関心や行事への参加率なども向上するだろう。
- といった仮説を立て、研究を進めてまいりました。



これまでの取組については、本研究の主題を頭に、

- ①授業実践での交通安全・災害安全の取組
  - ②専門委員会・部活動単位での生活安全の取組
  - ③そして地域と連携してフィールドワークを行ったり、授業の特別講師としてお招きしたり、防災フェアとして実施するなど
- 3つの柱を重点にあげ、取り組んできました。

それぞれの活動をする上で、さらに、

- ①目標設定・振り返りを通して責任ある行動をする
- ②多くの他者との協働
- ③生活や世の中を少しでも変えようと考え行動する
- ④学んだことを地域社会で生かす

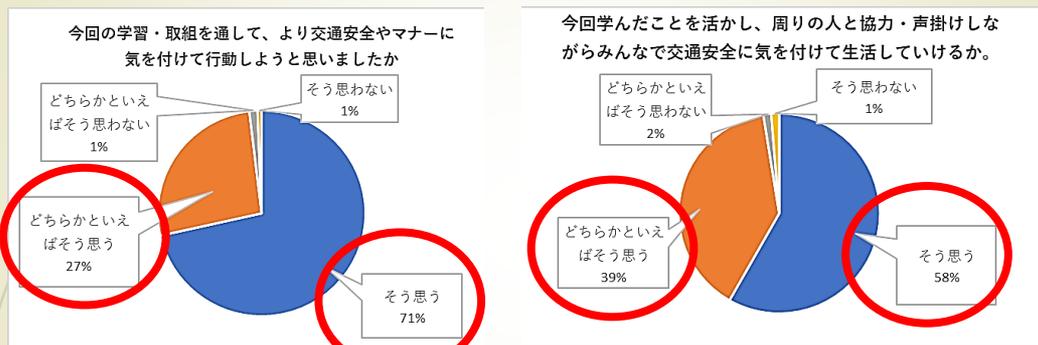
といった4つの視点・そしてその4つの関連やスパイラルを意識しながら取り組んできました。

## これまでの取組（研究紀要 中ページ）

交通安全部	災害安全部	生活安全部	その他
<b>1年生</b> ○地域を知る フィールドワークの実施  ○スケアード ストレイトへの参加  ○地域の交通安全 マップづくり	<b>2年生</b> ○DIG訓練から地域の強み・弱みを知る	<b>専門委員会</b>  生徒会本部 学級委員会 保健委員会 給食委員会 美化委員会 図書委員会  6つに分かれ、それぞれの特性を生かした生活安全に関する取組を実施。	<b>教職員研修</b>  健康教育課 小椋指導主事 をお招きし、 「学校安全に関する研修」を実施
	<b>3年生</b> ○HUG訓練を通して、地域の防災活動について知る		<b>PTA・地域の連携</b>  2年連続 「防災フェア」 の実施 AED講習・煙体験・消火器体験などの実施
	<b>4組 特別支援学級</b> ○防災イベントの企画・実施		
	<b>部活動</b> 「大規模地震の避難を想定した部活ごとの約束事の確認」		

具体的な令和5年度・令和6年度の取組はこのようになっています。  
 詳しくは、研究紀要の中ページに載っておりますのでご覧ください。  
 また研究つづりやこの体育館にも掲示されています。  
 ご覧いただければ幸いです。

## 成果と課題 (11月実施まとめのアンケートより) 交通安全への意識について



**どちらも97～98%の生徒が肯定的な回答  
生徒たちの意識や自信につながった。**

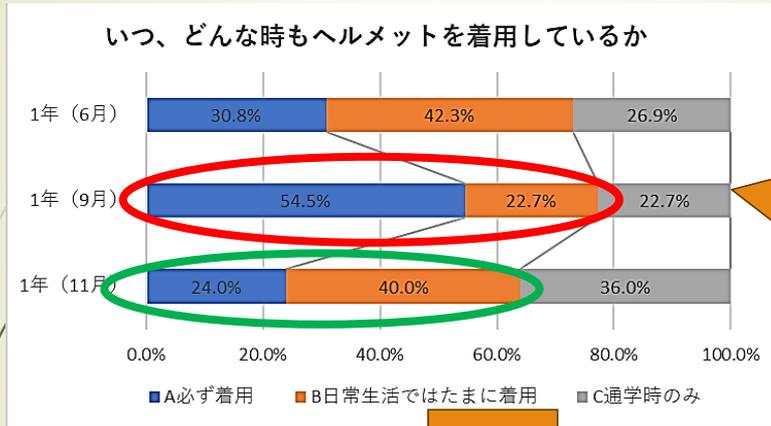
ここからは成果と課題について11月に実施したまとめのアンケートの分析を基に、お話しします。

交通安全の意識について、

①今回の学習・取組を通してより交通安全やマナーに気を付けて行動しようと思えましたか

②今回学んだことを活かし、周りの人と協力・声掛けしながらみんなで交通安全に気を付けて生活していけるか、といった問いに関してみると、青で示されるそう思う・オレンジで示される「どちらかといえばそう思う、といった肯定的な回答がどちらも97～98%となっており、学習が生徒たちの意識や自信につながったことが分かります。

## 成果と課題 (11月実施まとめのアンケートより) 交通安全への意識について



通学時以外も着用していると回答した生徒が  
6月 73.1%  
9月 77.2%  
11月 64.0%  
となっていた。  
他学年でも同様の結果であった。

**継続的・断続的に、交通安全への取組や講習などを行っていく必要がある。**

つづいて、6月にも実施した「いつ、どんな時もヘルメットを着用しているか」の項目についてです。

交通安全部の1年生の結果に着目すると、6月の回答では通学時以外も着用していると回答している生徒が73.1%であったところから、

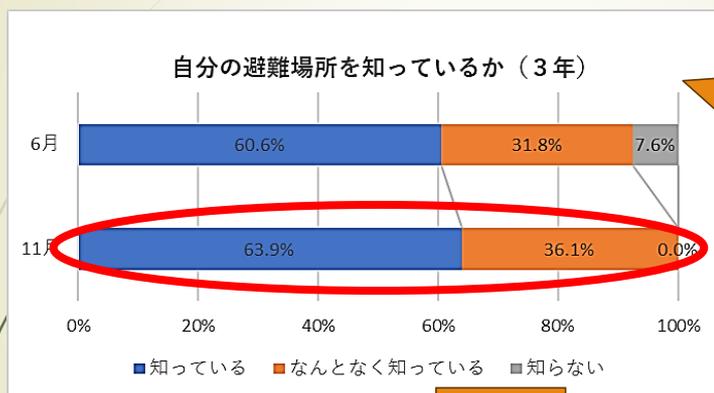
9月77.2%と増加したことが分かります。

しかし、11月のアンケートでは64.0%と減少しており、他学年でも同様の結果となっていました。

1学期特に1年生は自転車通学免許講習やスケアードストレイト訓練に参加しており、2学期は行事も多く講習なども行えていない背景がありました。

このような要因からも、一度だけではなく、継続的・断続的に交通安全への取組や講習などを行っていく必要があることが改めてわかりました。

## 成果と課題 (11月実施まとめのアンケートより) 災害安全への意識について



災害対応について授業で取り組んでいた3年生の結果。

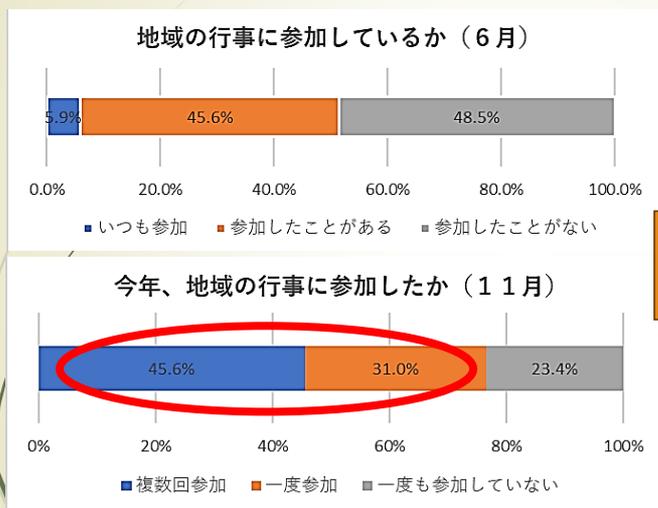
「知らない」と回答する生徒が0になり、肯定的な回答の数値もどちらも上昇していた。

**一度学習するだけでも効果があるのではないか。  
私たち「大人」が伝えていくことが大切。**

つづいて、災害安全への意識についてです。  
災害対応として避難所設営について考え、単元として取り入れてきた3年生の回答に着目します。  
6月時点では自分の避難場所を「知らない」と答える生徒が7.6%いたものの、11月にはすべての生徒が肯定的な評価を示しました。  
肯定的な回答の数値も上昇しており、「なんとなく」がまだまだ多いことは課題ではありますが、このような結果からも、一度学習するだけでも効果があるのではないかと考えられます。  
あの「釜石の奇跡」とよばれた釜石小学校でも、学校で習っていたから行動できた、と回答する児童が多かったといわれています。  
私たち「大人」の立場が、学校そして家庭で改めて伝えていくことが大切だと感じました。

## 成果と課題 (11月実施まとめのアンケートより)

### 地域の行事への参加について



参加したことがあると回答した生徒  
6月 51.5%  
11月 76.6%  
と大幅に上昇した。

地域と連携した取組や、  
学習と関連させて  
地域の方々との関わりを  
もてたからではないか。

続いて、地域の行事への参加についてです。

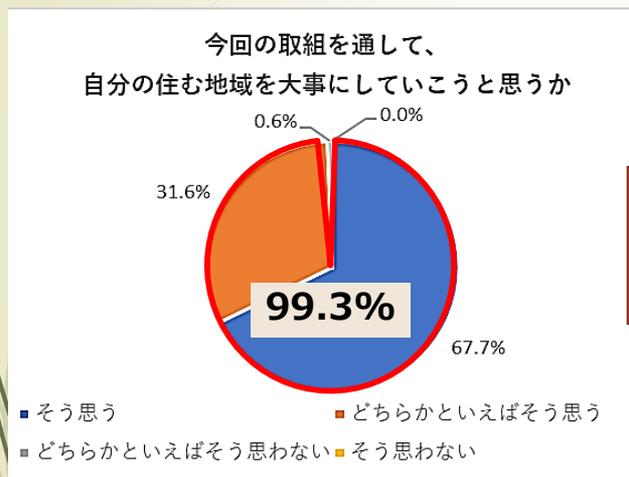
6月時点では参加したことがある生徒は51.5%であったのに対し、11月のアンケートでは76.6%と大幅に上昇しました。

このような結果になったのも、1年生はフィールドワークの中で自治会の方々や地域のタクシー会社の方のお話を聞く機会があったり、

2年生は防災アドバイザーさんたちを招いた授業を行ったりと、地域と連携した取り組みや、

学習と関連させて地域の方々とのかかわりを持てたことも要因としてあると考えています。

## 成果と課題（11月実施まとめのアンケートより） 地域への愛着について



地域行事への参加や、地域の方々とのかかわりが増えたことで地域愛着につながったといえるのではないか。

↓  
継続していきたい

続いて、地域への愛着に関する項目です。

今回の取組を通して、自分の住む地域を大事にしていこうと思うかの質問では、

そう思う・どちらかと言えばそう思うといった肯定的な評価が99.3%を示していました。

これも、地域行事への参加や、地域の方々とのかかわりが増えたことで地域愛着につながったといえるのではないかと考えています。

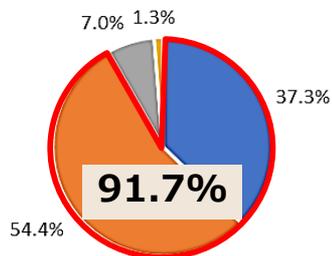
今後も、地域の方々と関わりのある単元や行事を行うなど、継続していきたい事柄です。

## 成果と課題（11月実施まとめのアンケートより）

エージェンシーの育成と自助・共助に関連して・・・

### 【共助】に係る項目

【共助】他者（家族・友人・地域の人々）と協力しながら、学校・町・ひとなどを守っていけるように行動出来ましたか。



■ そう思う  
■ どちらかといえばそう思う  
■ どちらかといえばそう思わない  
■ そう思わない

続いて、エージェンシーの育成と自助共助の項目を重ね合わせ、分析を行いました。

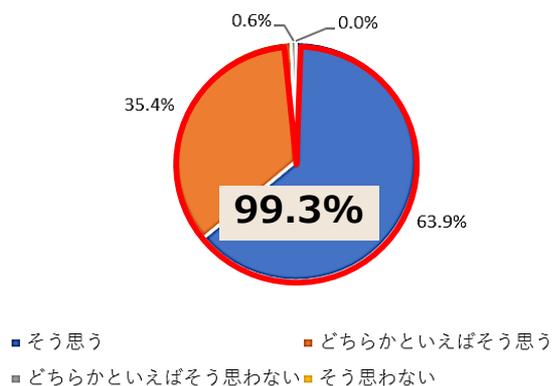
まず、「他者と協力しながら、学校・町・人を守っていけるように行動できたか、といった質問についてです。

そこではそう思う、どちらかと言えばそう思うと肯定的な回答が91.7%、どちらかと言えばそう思わない・そう思わないが合わせて8.3%となりました。

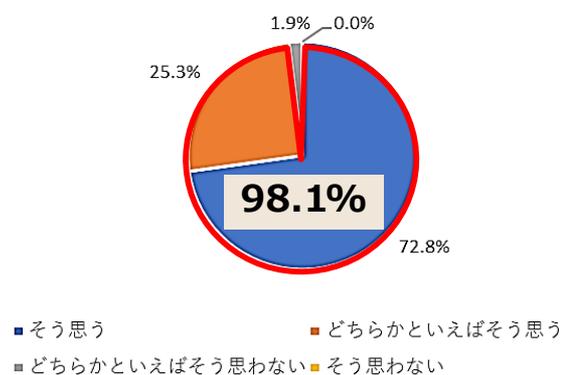
成果と課題（11月実施まとめのアンケートより）  
エージェンシーの育成と自助・共助に関連して・・・

【エージェンシー】に係る項目

周りの人が困っている時は進んで助けているか。

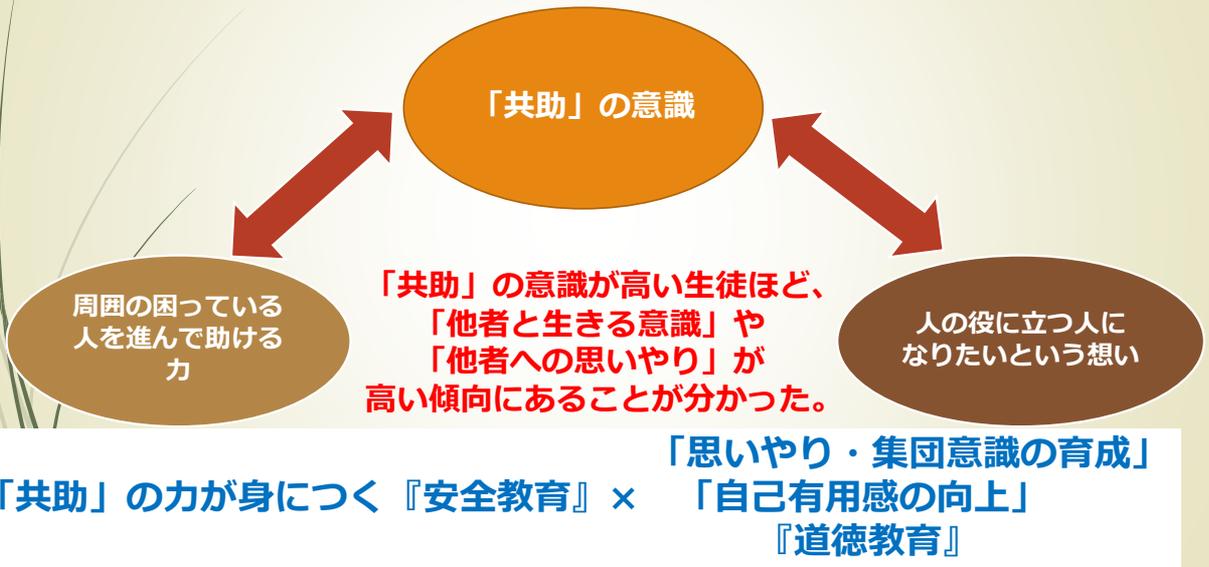


人の役に立つ人になりたいと思うか



また、エージェンシーに係る項目として、  
①周りの人が困っているときは進んで助けているか  
②人の役に立つ人になりたいと思うか  
の項目です。どちらも、肯定的な評価が98%近くなっています。

成果と課題 (11月実施まとめのアンケートより)  
エージェンシーの育成と自助・共助に関連して・・・



これらの項目について、互助の意識と周囲の困っている人を進んで助ける力との関連、互助の意識と人の役に立つ人になりたいという思いとの関連と、二つの関連を分析しました。

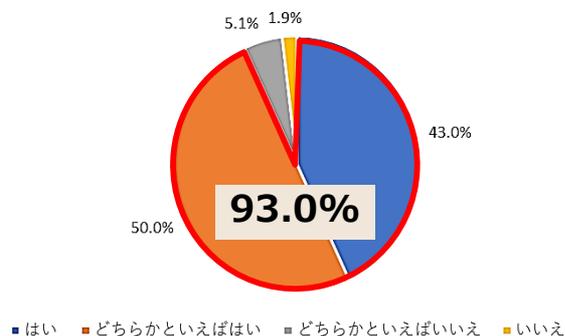
すると、「互助」の意識が高い生徒ほど、「他者と生きる意識」や「他者への思いやり」が高い傾向にあることが分かりました。

このことから、「互助」の力が身につく「安全教育の推進」と「思いやり・集団意識の育成」や「自己有用感の向上」といった道徳教育の推進も関連があり、どちらも意識的に進めていく必要があると分かりました。

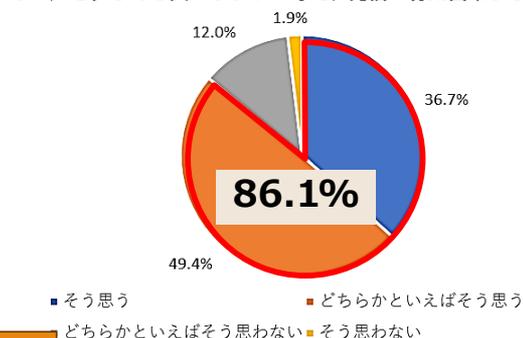
## 成果と課題（11月実施まとめのアンケートより）

エージェンシーの育成 他者との協働に関連して・・・

学んだことを他の場面で生かしているか。



授業で学んだことを元に、自分の生活や環境（家庭・学校・地域など）を少しでも良くしようと考え、発信・行動出来ましたか。



**他者との協働的な学びが「学んだことを地域社会に生かす」といった『エージェンシー』の育成につながった**

続いて、エージェンシーの育成と他者との共同に関連してです。

ここまで、本研究では「他者と協働しながら学習する・取り組む」ことを意識的に行ってまいりました。

学んだことを他の場面で生かしているかの項目では、肯定的な評価は86.9%、

学んだことを基に自分の生活や環境を少しでも良くしようと考え発信・行動できたかの質問では

肯定的評価は86.1%と、エージェンシーに係る質問についてどちらも高い数値を示しました。

このことから、他者との共同的な学びが、「学んだことを地域社会に生かす」といった『エージェンシー』の育成につながったと考えられます。

成果と課題（11月実施まとめのアンケートより）  
エージェンシーの育成 他者との協働に関連して・・・

学校安全の取組

すべての  
学校教育活動

各教科・領域  
の学習

協働的な学び

**「学校安全」のみならず、全ての学校教育活動から  
意識的に「他者との協働的な学び」を行っていくことで  
『エージェンシー』を育ていけるのではないか。**

ここまで本校では協働的な学びを学校安全の取組の中で意識的に行ってきました。

しかし、これは常日頃から各教科・領域での学習やすべての学校教育活動全体でも行われていることです。

このことから、「学校安全」のみならず、全ての学習・学校教育活動から意識的に「他者との協働的な学び」を行っていくことで

『エージェンシー』を育ていけるのではないか。と考えられます。

## アンケート 記述の問いより

生徒に自由記述の形で3つの問いをなげかけた

- ▶ 【交通安全】自転車通学の川通中学校での生活を、より安全にしていけるためにどんな工夫ができそうですか。

### 自助

自分自身で左右の確認をしっかりと行ったり、正しいヘルメットの着用を行うなど気を付ける。

- ・ 周りに交通ルール・マナーを守れていない人がいたら注意をする。
- ・ すべての学年フロアに、地区ごとの通学危険マップを置いておく。
- ・ ヘルメットの効果について、みんなに理解してもらい、みんながつけるように取り組む。

### 共助

今回のアンケートでは自由記述の形で3問、なげかけました。どの問いに対しても各学年60~70%の生徒が回答を入力してくれました。その中で抜粋して、生徒から出てきた案を共有します。

まず、交通安全に関して、自転車通学の川通中学校での生活を、より安全にしていけるためにどんな工夫ができそうですか。という問いに対してです。

・自分自身で左右の確認をしっかりと行ったり、正しいヘルメットの着用を行うなど気を付ける。といった「自助」の回答に加え、

- ・ 周りに交通ルール・マナーを守れていない人がいたら注意をする。
- ・ すべての学年フロアに、地区ごとの通学危険マップを置いておく。
- ・ ヘルメットの効果について、みんなに理解してもらい、みんながつけるように取り組む。といった「共助」の回答もありました。

## アンケート 記述の問いより

生徒に自由記述の形で3つの問いをなげかけた

- ▶ 【災害安全】自分や家族・友人・学校などを守っていくために、防災の取組としてさらにどんなことができそうですか。

### 自助

- ・避難所までの安全ルートを確認して実際に行ってみる。
- ・避難するときにすぐに持っていけるリュックなどを準備する。

- ・家族全員で防災グッズや避難経路を確認する。

- ・常日頃から家族と定期的に話し合い、万が一災害が起きたときに避難できるよう意識を高めておく。

### 共助

続いて、【災害安全】に関して、自分や家族・友人・学校などを守っていくために、防災の取組としてさらにどんなことができそうですか。という問いについては

- ・避難所までの安全ルートを確認して実際に行ってみる。
- ・避難するときにすぐに持っていけるリュックなどを準備する。 といった自助の内容、

- ・家族全員で防災グッズや避難経路を確認する。
- ・常日頃から家族と定期的に話し合い、万が一災害が起きたときに避難できるよう意識を高めておく。

といった共助の回答がありました。

## アンケート 記述の問いより

生徒に自由記述の形で3つの問いをなげかけた

### ● 自分の住むこの地域をよりよくするためにどんなことができそうですか。

- ・地域の美化活動などに積極的に参加する。
- ・お年寄りから子どもまでみんなが明るく過ごせるように挨拶を積極的に行っていく。
- ・困っている人がいたら助けたり、イベントなどに参加したりとより明るい地域になるようにしていきたい。
- ・自分たちで見つけた危ないところを自治会役員の人に伝えて、大人の人にも知ってもらおう。

## エージェンシー

最後に、自分の住むこの地域をよりよくするためにどんなことができそうですか。

といった問いに対しては、

- ・地域の美化活動などに積極的に参加する。
- ・お年寄りから子どもまでみんなが明るく過ごせるように挨拶を積極的に行っていく。
- ・困っている人がいたら助けたり、イベントなどに参加したりとより明るい地域になるようにしていきたい。
- ・自分たちで見つけた危ないところを自治会役員の人に伝えて、大人の人にも知ってもらおう。などと上がりました。

ここまでの学習を通して、このように広く問いを立てることで、生徒自身がたくさん考え、

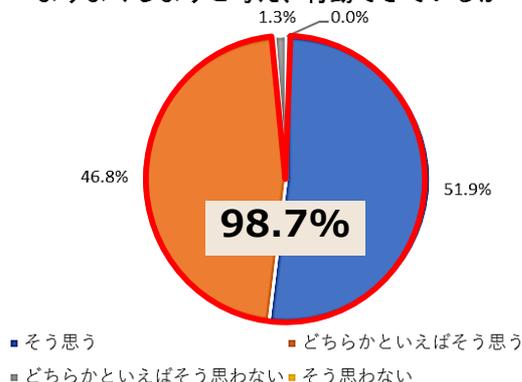
「自助」「共助」と問われずとも、自分一人だけでなく、家族や地域を守る意識が醸成されていたことがわかります。

この回答を見た時に、私はこれがまさにエージェンシーであると感じました。

このような生徒の考えを活かしながら、今後も教育活動に励んでいきます。

## 今後への課題

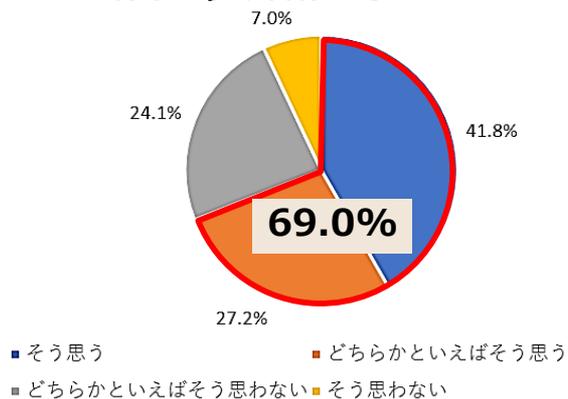
自分の所属する場所（学級・学年・部活動など）を  
よりよくしようと考え、行動できているか



『エージェンシー』

×

将来の夢や目標を持っているか



「キャリア」

今後への課題として新たな視点が見つかりました。

今回とった「エージェンシー」に関する問いである自分の所属する場所をよりよくしようと考え、行動できているか、についてこのような結果になりました。

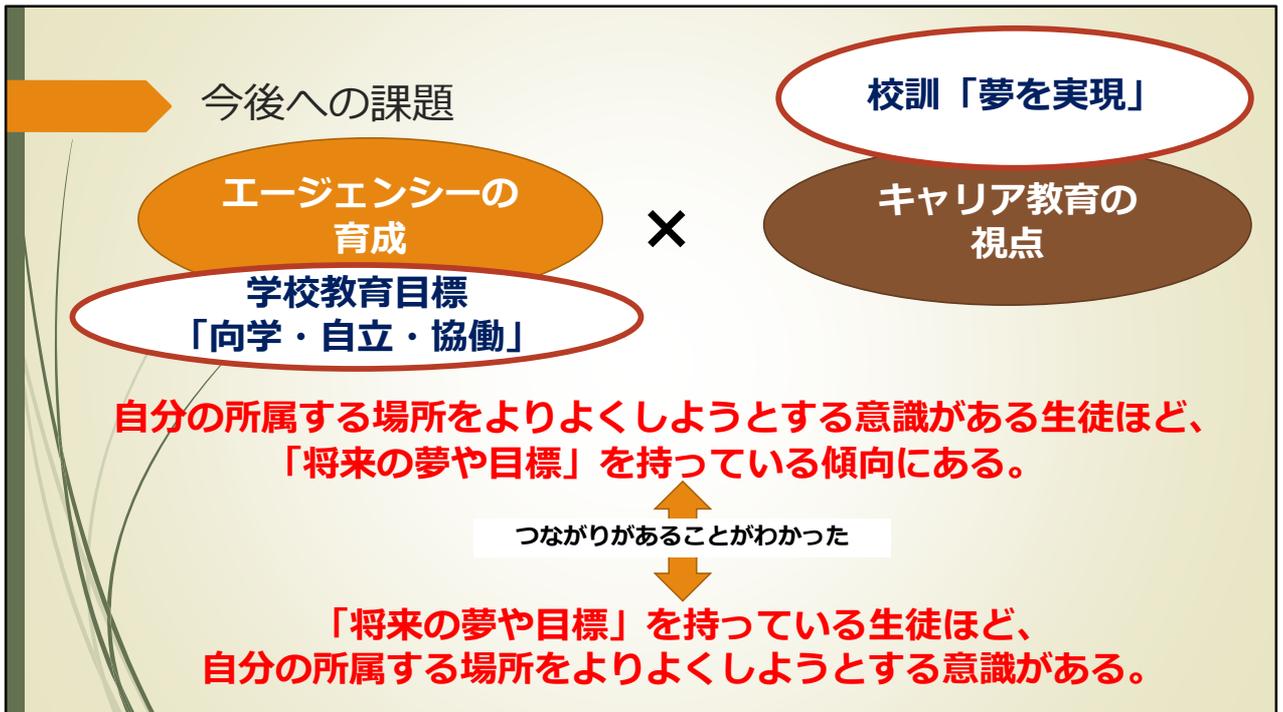
約98%が肯定的な回答を示していることが分かります。

また、将来の夢や目標を持っているか、という問いも図っていました。

その問いでは約70%が肯定的な評価をした一方で、30%は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答しています。

本校のこの項目は、さいたま市の平均をわずかに上回っていましたが、他のアンケート項目と比べると低めの値になっているものでした。

この二つの「エージェンシー」に係る項目と、「キャリア」に係る項目の関連を見てみると



「エージェンシー」の育成と「キャリア教育」の視点にはつながりがあることが分かり、自分の所属する場所をよりよくしようとする意識がある生徒ほど、「将来の夢や目標」を持っている傾向にある。反対に、「将来の夢や目標」を持っている生徒ほど、自分の所属する場所をよりよくしようとする意識がある。と言えることが分かりました。

このことから学校教育目標「向学・自立・協働」と近い意味である「エージェンシーの育成」は「キャリア教育」すなわち本校の校訓「夢を実現」に深く関わっているとわかりました。

## 今後への課題

**継続**

「学校安全」の取組  
「エージェンシー」の育成  
地域との深いつながり

**新しく...**

「キャリア教育の視点」  
も入れながら研究に励んでいきたい。

学校教育目標  
「向学・自立・協働」

校訓  
「夢を実現」

の体現へ。

これまで、本研究の成果と課題について述べてきました。  
今後への課題として、「学校安全」の取組・「エージェンシー」の育成・地域との深いつながりを継続していくことは欠かせないことです。  
どれも切って離せない物であり、何か新しく大きなことをするのではなく、少しずつでも、小さじ一杯でも取り組めることに励んでいく必要があります。

そして、新たな視点として

「キャリア教育の視点」も取り入れながら教育活動に励んでいきたいと考えています。

本校の学校教育目標は「向学・自立・協働」であります。

そして校訓は「夢を実現」です。

生徒のエージェンシーを育み、地域の中心となって活躍する生徒を育成するために、

「夢を実現」の体現も見据え、取り組んでまいります。

以上で、研究の概要発表を終わりにいたします。